

【監視 BlockS Pro ユーザーズガイド】

監視 BlockS Pro をご使用いただく前に、必ず本書をお読みください。

製品納品後、同梱品の確認は必ず行ってください。欠品している場合は弊社もしくは販売店にお申し付けください。
ただしご購入後 1 ヶ月以内とさせていただいておりますので、1 ヶ月を過ぎた場合は、お受けできない場合もあります。
あらかじめご了承ください。

監視 BlockS Pro に関する追加ドキュメント・最新アップデートデータ等の情報は、下記 URL から入手できます。

→<http://www.plathome.co.jp/support/labo/kbs/>

ぷらっとホーム株式会社

PW-MA-070801-1
30150014

1) 重要なお知らせ

- ・本書の内容の一部または全部を、無断で転載することを禁じます。
- ・本書の内容は予告なしに変更することがあります。
- ・本書の内容については、正確を期するように努めていますが誤り等に起因する結果については責任を負いかねます。
- ・本製品を運用したことによるお客様の損害、逸失利益、または第三者のいかなる請求につきましても、事項に関わらず責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・本製品のお取り扱いを誤った場合には責任を負いかねますので、ご使用前には必ず本マニュアルおよび付属のオンラインマニュアルをお読みください。

2) 電波障害防止について

- ・本装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCID)の基準に準拠した情報技術装置です。
- ・本装置は、米国連邦通信委員会(FCC)の ClassA 規格に適合しています。

3) 著作権、著作権について

- ・マニュアルの内容はすべて著作権によって保護されています。本マニュアル内容の一部または全部を、無断で転載することを禁じます。
- 【本書で使用しているイラストについて】
本書で使用しているイラストの著作権は、弊社に帰属しています。内容の一部または全部を、無断で転載することはご遠慮ください。

4) 商標および登録商標について

マニュアル本文中では商標 TM および登録商標 R の表記を省略しています。

OpenBlockS (オープンブロックス) はぶらっとホーム株式会社の登録商標です。

OpenBlockSS (オープンブロックスエス) はぶらっとホーム株式会社の商標です。

OpenBlockSR (オープンブロックスアール) はぶらっとホーム株式会社の商標です。

Microsoft は、Microsoft Corporation の商標です。

Microsoft, MS-DOS, Windows, Windows NT, Microsoft Internet Explorer は、米国 Microsoft Corp.の米国およびその他の国における商標または、登録商標です。

i486,Pentium,MMX,Celeron は、Intel Corporation のアメリカ合衆国およびその他の国における登録商標です。

PowerPC および OS/2 は、International Business Machines Corporation の商標です。

Ethernet は、米国 XEROX 社の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。

UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

Netscape および Netscape Navigator は、Netscape Communications Corp.の米国およびその他の国における商標または、登録商標です。

本製品には ApacheGroup (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。

本製品には Sendmail,Inc が商標権を持つ Sendmail が含まれます。

その他の商品名、会社名は、各社の商標または登録商標です。

本製品で使用しているソフトウェアの多くは、GNU 一般公衆利用許諾契約書 (GNU General Public License) または BSD の著作権 (BSD copyright) のもとで、自由に再配布可能です。ただし、アプリケーションによっては、所有者の許可なく再配布することはできません。

※ 一部の説明画面にはハメコミ合成を使用しています、実際の画面と異なることがあります。

※ 記載されている内容・仕様・価格は、予告なしに変更する場合があります。

※ 商品写真は出荷時のものと異なる場合があります。

目次

1. はじめに.....	5
2. 保証について	5
3. 安全にご使用いただくために	6
4. 装置の設置・接続	8
4.1. 装置各部の名称	9
4.2. 起動と終了	12
4.3. 各種接続.....	13
4.4. 設定の手順	16
4.5. ハードウェアの設置	16
4.6. 設定を行うコンピュータの接続	16
4.7. 監視 BlockS Pro へのログイン.....	17
4.8. 監視 BlockS Pro の IP アドレスの変更	20
4.9. 通知サーバ設定を行う	22
4.10. 共通通知設定を行う	24
4.11. メール文面のカスタマイズ.....	27
5. 監視パターンの設定.....	29
5.1. 対象ホストの登録.....	31
5.2. 「監視設定追加画面」設定	32
5.3. MRTG 監視の設定	35
5.4. SNMP 監視の設定	37
5.5. SNMPTRAP 監視の設定	39
5.6. 監視ホストの削除.....	40
5.7. 既存設定を引き継いでの新規ホストの登録	41
5.8. 設定一覧.....	42

5.9. 監視の一時停止	43
6. WEB 監視ツールとの連携	44
7. システム管理	46
7.1. 監視 BlockS Pro のソフトウェアをバージョンアップする。	46
7.2. ファームウェアのアップデート	48
7.3. 監視設定のバックアップ	50
7.4. 監視設定のリストア	52
7.5. パスワードの変更	54
7.6. 監視 BlockS Pro の再起動	55
7.7. 監視 BlockS Pro の停止	57
8. 自己復旧コマンドによる復旧	59
8.1. パスワードを忘れた場合の処理	59
8.2. IP アドレスやパスワードなど全てを初期化する。	60

本ユーザーズガイドは、監視 BlockS Pro 6.0.1 専用です。

アップデートは下記 URL で配布中です。
<http://www.plathome.co.jp/support/labo/kbs/>

1.はじめに

『監視 BlockS Pro』をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本製品は、ネットワーク上の対象ホストに、指定された間隔でコネクションを行い、ホストやネットワークサービスの死活監視を行うものです。

本ユーザーズガイドは、製品の取り扱い方・ネットワーク設定・監視設定等を示しています。ご使用前に本ユーザーズガイドをお読みの上、使用する環境に即した設定を行ってください。本ユーザーズガイドは、いつでも見ることできる場所に大切に保管してください。

2.保証について

ご購入いただきました本製品の保証期間は、弊社出荷後1年間のハードウェアセンドバック保守になっています。保守時には無償修理・有償修理を問わず、製品に同梱されており保証書が必要になりますので、保証書は大切に保管してください。保証規定等については、保証書に記載されておりますのであわせてご覧ください。

【無償センドバック保証】

- ・保証期間の起算日は、弊社の出荷日とさせていただきます。
 - ・保証書が添付されている本製品について対象となります。
 - ・故障時の修理は、お客様から故障した本装置を弊社指定の窓口までご返送いただくセンドバック方式となります。お客様の設置場所にて修理を行うオンサイト保証ではありません。
 - ・センドバック時の返送料については、初期不良（出荷日より1ヶ月以内）は、弊社で負担いたします。着払いにてご返送ください。
 - ・初期不良（出荷日より1ヶ月以内）期間以降の修理は、お客様にご返送料をご負担いただくこととなりますのでご了承ください。
 - ・内容物の確認、および動作確認は製品納入後すぐに行ってください。納入後、お客様の内容物確認、動作確認に要する期間も保証期間に含まれます。
 - ・本装置に保存されたデータ(情報)はいかなる場合も保証しておりません。装置本体（ハードウェア）のみの保証となります。
 - ・記録されたデータは、検査を行う際にテストデータの上書きを行うため、消失いたします。データ復元等のサポートは行っておりません。あらかじめご了承ください。
 - ・センドバック修理をご依頼の際は、弊社までご連絡後に保証書に必要事項を記入して、本装置に同梱の上弊社保守サービス係までご返送ください。
 - ・本装置ご返送の際は、納入時の梱包箱を使用してください。梱包箱を廃棄してしまった場合は同等の緩衝材を詰め安全な状態でのご返送をお願いいたします。
- ※ ハードウェア修理作業には、通常でおよそ10営業日のお時間を頂いておりますが、修理の内容や故障の度合いにより前後することがあります。また、修理に要する期間も保証期間に含まれますのでご了承ください。

本製品のメンテナンスおよび、弊社製品に関する技術的なご質問は、下記までお問い合わせください

◆ お問い合わせ窓口

月曜～金曜（祝祭日、年末年始を除く） 9:30～18:00

TEL : 03-5767-8565 FAX : 03-5753-4652

電子メールアドレス : support@plathome.co.jp





◆ 製品のご返送先










〒143-0006 東京都大田区平和島6-1-1 TRC-B棟 6F










ぶらっとホーム(株) カスタマーケア課 宛

3.安全にご使用いただくために

- ・本装置を正しく安全にお使いいただくために必ずお守りください。
- ・操作は、このマニュアル内の指示、手順にしたがって行ってください。
- ・マニュアルに表示されている注意事項は必ず守ってください。
- ・注意を怠ると、けが、火災や装置の破損を引き起こすおそれがあります。

 警告	誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷に結び付く可能性があるもの。
 注意	誤った取り扱いをしたときに、障害または家屋家財等の障害に結び付くもの。
	これは製品を使用する上で行ってはいけないことを示しています。
	これは指示に基づいて行っていただきたいことを示しています。

 警告	
	装置の接続作業は接続先の周辺機器の電源を必ず OFF した後に行ってください。感電、火災、けがの原因になります。
	AC アダプタや各ケーブルには、重いものを載せたり、熱器具を近づけたりしないでください。電源ケーブルの被覆が傷つき火災、感電の原因になります。
	煙が発生する、変な音がするなどの異常が発生した場合は、AC アダプタを電源コンセントから抜いた後に、弊社もしくは販売会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因になります。
	石油類、マニキュア、除光液などの揮発性の液体は、本装置の近くで使わないでください。本装置の不具合の原因となる場合もあります。
	装置を運用中、もしくは電源 OFF 直後の装置は高温になっていますので触れないでください。触れてしまった場合は、火傷をするおそれがあります。
	花びん、植木鉢、コップなど水回りに本装置を置かないでください。水分がこぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因になります。水分がこぼれた場合は、AC アダプタを抜いてから、弊社もしくは販売会社に相談ください。
	本装置の梱包用のポリ袋は、お子様の手の届く所に置かないでください。かぶったりすると、窒息するおそれがあります。
	機器の接続、取り外しは、本書の指示にしたがってください。誤った取り扱いをすると感電、火災、けがの原因になります。

 注意	
	コードは必ず付属のものを使用し、以下のことに注意して取り扱ってください。 <ul style="list-style-type: none"> ・物を載せない・引っ張らない・押し付けない・折り曲げない ・熱器具のそばで使わない・加工しない・束ねない 取り扱いを誤ると、電源コードの銅線の露出やショートによる一部断線で、過熱して感電や火災の原因になります。
	ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。装置の運用状態に影響が出てしまう場合があります。
	湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気の当たる場所に置かないでください。火災、感電の原因になります。
	電源は必ず AC100V(50Hz または 60Hz)を使用してください。それ以外の電源を使用すると火災の原因になります。またすぐに AC アダプタを抜けるように、コンセントの周りには物を置かないでください
	落雷等の自然災害や誤操作による破損については、保証いたしかねます。
	煙霧状の殺虫剤などを使用するときは、事前にビニールシートなどで本装置を完全に包んでください。
	本装置の汚れを拭き取る場合は、シンナー、ベンジンなどの揮発性のものを使わずに乾いた布で拭いてください。アルコール類を使用した場合は塗装がはげることがあります。
	本装置を停止させる場合は、所定の手順に則りおこなってください。強制的に電源断を行った場合、内部データが破損することがあります。

4.装置の設置・接続

本章では、装置各部の名称の説明や、本装置とパーソナルコンピュータ等への接続手順を記載しています。



警告

■設置

- ・転倒のおそれがあります。縦置きでは使用しないでください。
- ・直射日光の当たる場所や、ストーブなど発熱する器具の近くでは使用しないでください。

■その他の周辺機器に接続する場合

- ・ケーブルを使って接続する場合は、各コネクタの形状を確認してから差し込んでください。異なったコネクタを無理に差し込んでしまうとピンが曲がり、故障の原因になります。

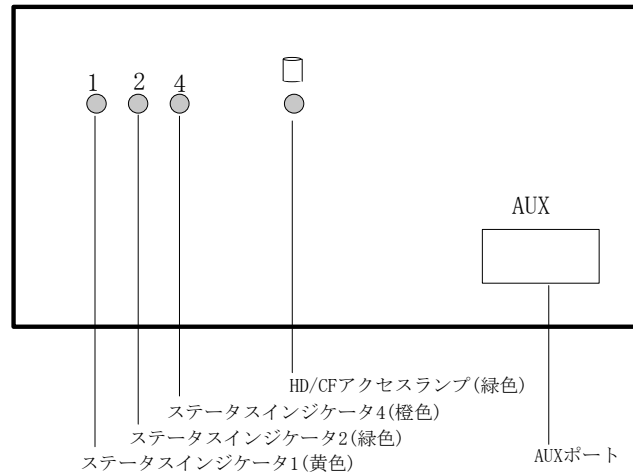
■電源

- ・本装置の電源として以下の仕様の電源を用意してください。個々の機器は電源コンセントからあまり離さないように設置してください。
 - 電圧 100V±5V(50Hz/60Hz)
 - コンセント 2極接地、15A
- ・通路に電源ケーブルをはわせないでください。人がつまずくなど、けがの原因になります。
- ・AC アダプタ接続時に、AC アダプタ本体を宙づり状態にしないでください。コネクタ部分やコード差し込み部分が重さに耐えきれずに破損する場合があります。
- ・AC アダプタは本製品付属のものをご使用ください。付属 AC アダプタ以外や、弊社が推奨するもの以外を使用した場合の機器の破損や発火等については保証対象外となります。あらかじめご了承ください。

4.1.装置各部の名称

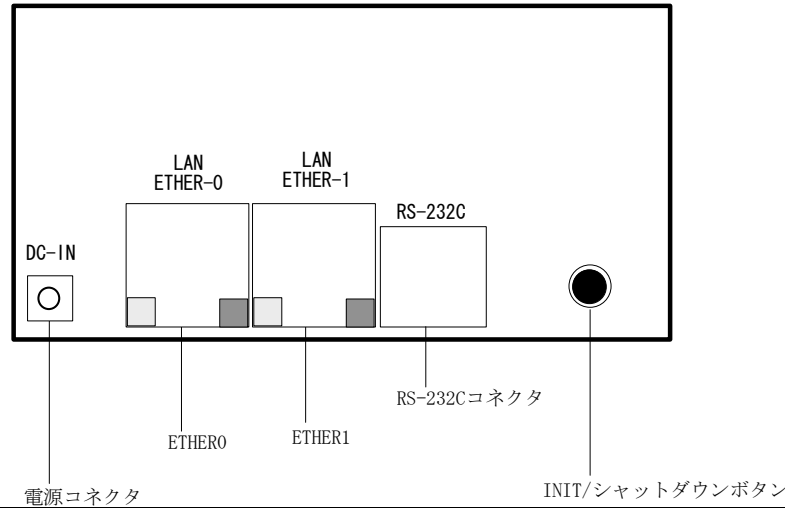
1) コネクタ・表示ランプ

【前面】



HDD/CF アクセスランプ	HDD/CF へのアクセス時に点灯します。
ステータスインジケータ 1,2,4	OS の動作状態を示します。 ※詳細は付属 CD-ROM の「OpenBlockS266 ユーザーズマニュアル」を参照してください。
AUX ポート	オプションのシリアルレベル変換ボードと接続します。 ※詳細は付属 CD-ROM の「OpenBlockS266 ユーザーズマニュアル」を参照してください。

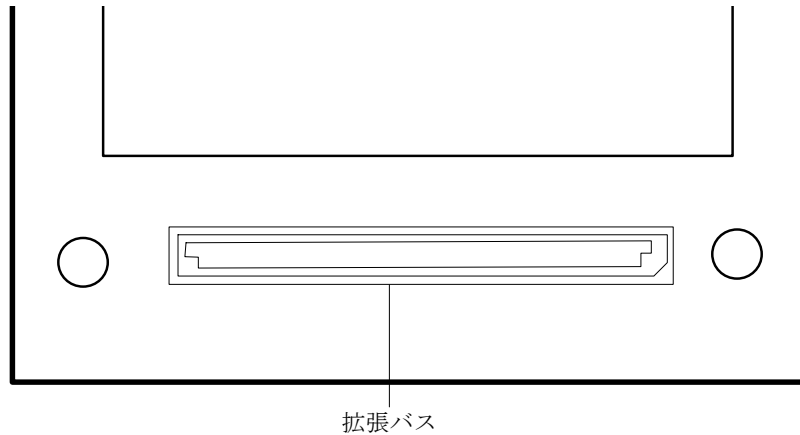
【背面】



電源コネクタ	付属の AC アダプタと接続します。
ETHER0	10Base-T/100Base-TX 自動切替のネットワークインタフェースです。
ETHER1	10Base-T/100Base-TX 自動切替のネットワークインタフェースです。
RS-232C	RS-232C インタフェースです。監視 BlockS Pro に直接アクセスするコンソールポートとして使用します。通常は使用しません。
INIT ボタン	装置を停止するときに使用します。

Ether ポートの LED : 左側緑 点灯:接続が確立していることを示します。
 左側橙 点灯:100M で接続していることを示します。

2)オプション用インタフェース
【底面】



拡張バス: オプションの各種インタフェースの接続の際に使用します。通常は使用しません。

4.2.起動と終了

【起動方法】

本装置には電源スイッチがありません。ACアダプタからの給電開始により、自動的に電源がONになり、OSおよび監視プログラムが起動します。

このとき、RS-232C コネクタをPCに接続するなどして、PCのコンソールから監視 BlockS Pro の起動プロセスを確認することが出来ます。

【終了方法】

- 1) ACアダプタを抜く前に後述のシャットダウン手続きを行います。
- 2) シャットダウン完了後ACアダプタを抜きます。

シャットダウンには3つの方法があります。

a) ログインしての終了

RS232CポートもしくはEtherポートから監視 BlockS Pro にログインし、以下のコマンドを入力するとシャットダウン処理が始まります。
ステータスインジケータ 1,2,4 が全て点滅になったら AC アダプタを抜いて下さい。

`# shutdown -h now`

b) INIT ボタンでの終了

INIT ボタンを1回押すと、aと同じ処理が自動的に行われます。
ステータスインジケータ 1,2,4 が全て点滅になったら AC アダプタを抜いて下さい。

c) WEB からの停止

設定 WEB の「システム管理」ページの「シャットダウン」の実行ボタンを押します。
ステータスインジケータ 1,2,4 が全て点滅になったら AC アダプタを抜いて下さい。

4.3.各種接続

【コンピュータとの接続】

本装置をコンピュータと接続するときは、お客様ご自身が行うネットワークの設定方法によって、

- 接続するケーブル
- ハブへの接続方法

等が異なります。

ご自身が行うネットワークへの接続方法を確認後、それに適応したものを選んでください。

- 1) 監視 BlockS Pro とコンピュータをケーブル類で接続
- 2) 監視 BlockS Pro の起動（電源 ON：ACアダプタの接続）
- 3) 監視 BlockS Pro を接続したコンピュータの起動（電源 ON）
- 4) コンピュータのネットワーク設定
- 5) コンピュータの再起動
- 6) 監視 BlockS Pro の設定

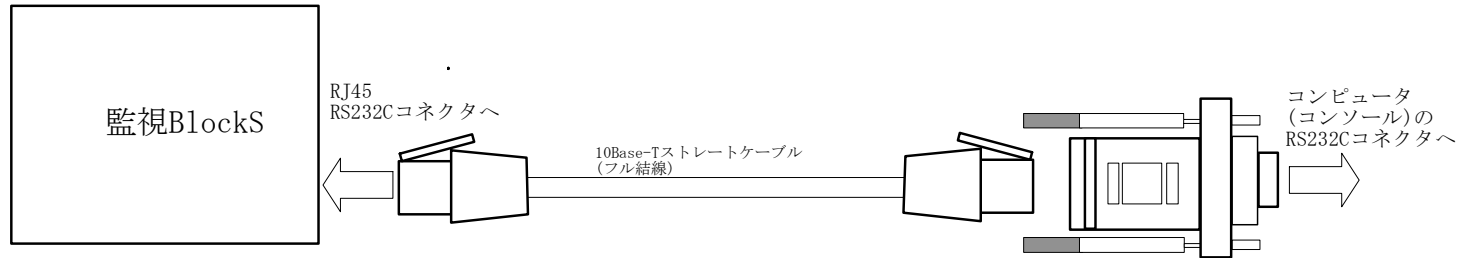
※2.3.4 の順番についてはネットワークの接続方法によって順番が入れ替わります。

お客様の選択された方法により進めてください。

【RS-232C ポートの使用方法】

本装置は、2つの Ethernet ポート以外にも RS-232C ポート（シリアルポート）を備えています。通常、設定を行うのにシリアルポートを使用する必要はありませんが、起動時のブートログの取得や、Linux OS へのコンソールログイン等、特殊な操作を行う際にシリアルポートを用いることが可能です。

本装置の RS-232C ポートは RJ-45 コネクタとなっていますので、通常の DSub9 ピンのついたコンピュータと接続する場合は、付属の DSub9 ピン—RJ-45 変換コネクタを用い、コネクタを変換してご使用ください。



詳細は付属 CD-ROM の『ユーザーズマニュアル』の「コンソールから接続する」をご参照ください。

Step1. ケーブルの接続

RS-232C のクロスケーブルで、本装置の RS-232C ポートとコンピュータのシリアルポートを接続します。本装置側のシリアルポートは RJ-45 となっているため、付属のアダプタを使用して標準の DSub-9 ピンに変換して接続してください。

アダプタは DSub-9 ピンのメス型でクロス結線になっています。装置本体と変換アダプタの間は、付属ケーブル、または 8 本の信号線がすべてストレートに接続されているタイプの市販の LAN ケーブルを使って接続してください。

Step2. 本体の起動

付属している AC アダプタを 100V 電源に接続後、本装置に AC アダプタを接続すると、本装置が起動開始します。接続が正しければブートログが表示され、起動した段階で“login:”のプロンプトが表示されます。

正しく動作しない場合は、以下の項目についてご確認ください。

- 1) ログインするマシン側(コンソール側)でターミナルエミュレータを起動し、通信条件が以下になっているかご確認ください。

データ長	8bit
パリティ	なし
ボーレート	9600bps
ストップビット	1
フロー制御	none

- 2) シリアルポートが使用可能となっていることをご確認ください。

〈方法〉 Windows PC の場合：

“システムプロパティ” → “ハードウェア” → “デバイスマネージャ” → “ポート” のダイアログ内でご確認できます。

- 3) ポート番号をご確認ください。

〈方法〉 Windows PC の場合：上記 2 と同様の手順で確認できます。

アダプタは Dsub-9 ピンのメス型ではクロス結線になっています。装置本体と全てストレートに接続されているタイプの市販の LAN ケーブルを使って接続して下さい。

4.4.設定の手順

監視 BlockS Pro の設定は、以下の手順で行ってください。

4.5.ハードウェアの設置

監視 BlockS Pro を適切な場所に設置し、AC アダプタを接続して下さい。なお 4 章冒頭の「警告」を必ずご覧の上、適切に設置するようにして下さい。

4.6.設定を行うコンピュータの接続

設定を行うコンピュータの条件は以下の通りです。

- JavaScript を使用できる Web ブラウザが動作すること。
- Ethernet ポートを持つこと。

監視 BlockS Pro の ETHER-0 コネクタと、設定を行うコンピュータの Ethernet ポート (LAN ポート) を、それぞれストレートケーブルで Hub に接続します。もしくは、監視 BlockS Pro の ETHER-0 コネクタと、コンピュータの Ethernet ポート (LAN ポート) を、クロスケーブルで直結します。

4.7.監視 BlockS Pro へのログイン

本装置の初期状態では、以下のようなネットワーク設定がされています。

インタフェース	ETHER-0	ETHER-1
IP アドレス	192.168.253.254	192.168.254.254
ネットマスク	255.255.255.0	255.255.255.0

初期設定画面にログインするため、監視 BlockS Pro に接続したコンピュータの IP アドレスを、"192.168.253.xxx" (xxxには任意の数字が入ります) にあわせてください。
ここでは、192.168.253.200 に設定したものとします。

監視 BlockS Pro に接続したコンピュータで Web ブラウザを実行し、http://192.168.253.254/を開きます。

この時、ブラウザの JavaScript 機能は必ず「有効」にしておいて下さい。
--

問題が無ければ、以下の監視 BlockS Pro ログイン画面が表示されます。



監視BlockS Pro

ログインします

パスワードを入力してください

パスワード

ログイン クリア

監視BlockS Pro ソフトウェア ver. 6.0.1
Copyright © 2004, 2005, 2006, 2007 Plat'Home CO.,LTD. All rights reserved.

表示されたログイン画面の“パスワード”欄にパスワードを入力し、“ログイン”ボタンをクリックします。

工場出荷時のパスワード: **zdx44c**

このパスワードは監視 BlockS Pro の root ユーザパスワードです。

初期設定が完了したら、セキュリティの確保のため、運用開始前に必ず別のパスワードに変更して下さい。
→パスワードの変更方法は『7.5 パスワードの変更』を確認してください。

入力したパスワードが正しければ、画面左端にメニュー画面が表示されます。



ブラウザの JavaScript 機能が有効になっていない場合、正常にログインが行えない場合があります。異常がある場合にはブラウザの設定を確認して下さい。

4.8.監視 BlockS Pro の IP アドレスの変更

1. 表示された画面左のメニューから【基本設定】を開きます。

基本設定:

ネットワーク設定

ホスト名	<input type="text" value="LinuxServer"/>
ドメイン名	<input type="text" value="localdomain.co.jp"/>
eth0:IPアドレス	<input type="text" value="192.168.253.254"/>
eth0:ネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
eth1:IPアドレス)	<input type="text" value="192.168.254.254"/>
eth1:ネットマスク	<input type="text" value="255.255.255.0"/>
デフォルトルート	<input type="text" value="192.168.253.194"/>
インタフェース	<input type="text" value="eth0"/>
ネームサーバ	<input type="text"/>
	<input type="text"/>
	<input type="text"/>

時刻同期設定

ntpサーバ	<input type="text"/>
--------	----------------------

2. ‘ネットワーク’ 設定の中で、以下の項目を設定します。

項目	内容
ホスト名	監視 BlockS Pro のホスト名(ネットワーク上の名前)を入力します。
ドメイン名	監視 BlockS Pro のドメイン名を入力します。
eth0:IP アドレス	監視 BlockS Pro の eth0 側の IP アドレスを入力します。
eth0:ネットマスク	監視 BlockS Pro の eth0 側のネットマスクを入力します。ネットマスクの入力は 10 進数で行ってください。
eth1:IP アドレス	監視 BlockS Pro の eth1 側の IP アドレスを入力します。
eth1:ネットマスク	監視 BlockS Pro の eth1 側のネットマスクを入力します。ネットマスクの入力は 10 進数で行ってください。
デフォルトルート	監視 BlockS Pro を接続するネットワークの上位ルータの IP アドレスを入力します。
インタフェース	監視 BlockS Pro を接続するネットワークの上位ルータが接続されているポートを指定します。
ネームサーバ	監視 BlockS Pro が使用するネームサーバを入力します。 最大 3 個まで登録可能です。
ntp サーバ	NTP により、ネットワーク経由で時刻補正を行う場合に設定します。 その場合、NTP サーバのアドレスを入力してください。 時刻の同期間隔は、最小 64 秒（起動直後）～最大 1024 秒（動作安定後）です。 起動から時間が経ち、内蔵時計の更新が安定して行われるようになり、同期先の NTP サーバとの時刻の相違が小さくなるにつれ、徐々に同期間隔は長くなります。

これらの内容に間違いが無ければ、画面上部の[保存]ボタンを押して下さい。すると、再起動するか聞いてきます。[OK]を選択すると、設定設定内容が書き込まれ新しい設定で監視 BlockS Pro が再起動します。

[キャンセル]をすると設定は行われません。

ご使用のネットワーク環境に合わせて IP アドレスの変更後、再起動された監視 BlockS Pro に再度ログインしてください。

IP アドレスの変更後は、新しい IP アドレスで監視 BlockS Pro にアクセスする必要があります。

また、192.168.253.xxx 以外の IP アドレスに変更した場合には、以下の設定で使用するコンピュータの IP アドレスもそれに合わせ変更して下さい。

例：

監視 BlockS Pro のアドレス: 192.168.253.254→192.168.0.10

コンピュータのアドレス: 192.168.253.1 →192.168.0.1

4.9.通知サーバ設定を行う

1. 表示されたメニューの中から【共通サーバ設定】を開きます。

通知サーバ設定:

SMTPサーバ設定

サーバ1	SMTPサーバ	<input type="text" value="192.168.253.194"/>	: <input type="text" value="25"/>
	SSL	<input type="checkbox"/> SSL通信を使用する	
	認証	<input checked="" type="radio"/> 認証なし <input type="radio"/> SMTP-AUTH <input type="radio"/> POP before SMTP	
	ユーザID	<input type="text"/>	
	パスワード	<input type="text"/>	
	POP3サーバ	<input type="text"/>	: <input type="text" value="110"/>

サーバ2	SMTPサーバ	<input type="text"/>	: <input type="text" value="25"/>
	SSL	<input type="checkbox"/> SSL通信を使用する	
	認証	<input checked="" type="radio"/> 認証なし <input type="radio"/> SMTP-AUTH <input type="radio"/> POP before SMTP	
	ユーザID	<input type="text"/>	
	パスワード	<input type="text"/>	
	POP3サーバ	<input type="text"/>	: <input type="text" value="110"/>

サーバ3	SMTPサーバ	<input type="text"/>	: <input type="text" value="25"/>
	SSL	<input type="checkbox"/> SSL通信を使用する	
	認証	<input checked="" type="radio"/> 認証なし <input type="radio"/> SMTP-AUTH <input type="radio"/> POP before SMTP	
	ユーザID	<input type="text"/>	
	パスワード	<input type="text"/>	
	POP3サーバ	<input type="text"/>	: <input type="text" value="110"/>

syslogサーバ設定

サーバ1	<input type="text" value="192.168.253.98"/>	: <input type="text" value="514"/>
サーバ2	<input type="text"/>	: <input type="text" value="514"/>
サーバ3	<input type="text"/>	: <input type="text" value="514"/>

2. メール通知、syslog 送信で使用するサーバを設定します。

2.1SMTP サーバ設定

通知メール転送に使用する SMTP サーバを指定します。 最大 3 箇所まで指定できます。

上のサーバから通知メールの発信を行い、失敗したときに次のサーバでの発信を行います

項目	内容
SMTP サーバ	SMTP サーバの FQDN または、IP アドレスと使用するポート番号を指定します。
SSL	SMTP over SSL ならびに POP3 over SSL の通信を使用するかを設定します。
認証	SMTP 通信の認証方式を選択します。
ユーザ I D	SMTP-AUTH,POP before SMTP でログインする時のユーザ I D を指定します。
パスワード	SMTP-AUTH,POP before SMTP でログインする時のパスワードを指定します。
POP3 サーバ	POP before SMTP で使用する POP3 サーバの FQDN または、IP アドレスと使用するポート番号を指定します。

STARTTLS が使用可能なサーバの場合は、必ず STARTTLS を行って通信します。

SMTP-AUTH は、CRAM-MD5, LOGIN, PLAIN に対応しています。

POP3 では、グリーティングメッセージにチャレンジ文字列が含まれていれば、必ず APOP 認証を行います。

2.2 Syslog 通知設定

Syslog メッセージの送信先を指定します。 最大 3 箇所まで指定できます。

指定されたすべての送信先に Syslog メッセージを送信します。

項目	内容
syslog ホスト	Syslog メッセージ送信先の FQDN または、IP アドレスと使用するポート番号を指定します。

4.10. 共通通知設定を行う

1. 表示されたメニューの中から【共通通知設定】を開きます。

共通通知設定:

メール通知設定

通知条件	<input type="radio"/> 通知を行わない <input type="radio"/> 常に通知を行う <input checked="" type="radio"/> 障害を検知した時のみ通知を行う <input type="radio"/> 監視結果が変化した時のみ通知を行う <input type="radio"/> 監視結果が異常へと変化した時のみ通知を行う
障害条件	<input type="text" value="1"/> 回連続でエラーを検知した時に障害と見なす
通知アドレス	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/>
Fromアドレス	<input type="text"/>
返送アドレス	<input type="text"/>
追加ヘッダ	<input type="text"/>
通知文面	<input type="button" value="デフォルト"/> <input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="新規作成"/>

syslog通知設定

通知条件	<input type="radio"/> 通知を行わない <input checked="" type="radio"/> 常に通知を行う <input type="radio"/> 障害を検知した時のみ通知を行う <input type="radio"/> 監視結果が変化した時のみ通知を行う <input type="radio"/> 監視結果が異常へと変化した時のみ通知を行う
------	--

2. メール通知の条件、syslog 機能の有効/無効等を設定します。

2.1 メール通知設定

項目	内容
通知条件	通知メールを発信する条件を設定します。
障害条件	何回連続して異常を検知したら障害とみなすかを設定します。 通知条件が「障害を検出した時のみ通知を行う」のときに有効です。
通知アドレス	通知メールの送信先メールアドレスと個人別の通知メールの文面を設定します。 最大5箇所まで指定できます。 通知メールの文面を「無指定」とすると「通知文面」欄で選択された文面となります。
From アドレス	通知メールの From: のメールアドレスを指定します。
返送アドレス	通知メールの返送先メールアドレスを指定します。
追加ヘッダ	通知メールに追加するヘッダを指定します。
通知文面	通知メールの文面を選択します。 「編集」で現在選択している文面の編集画面を行い、「新規作成」で新しい文面を作成します。

通知条件

「通知を行わない」	通知メールを発信しません。
「常に通知を行う」	監視を行ったときに、必ず通知メールを発信します。
「障害を検知した時のみ通知を行う」	障害条件で指定した回数連続して異常を検出した場合に、 障害とみなし通知メールを発信します。
「監視結果が変化した時のみ通知を行う」	監視先の、「正常・異常」の状態に変化が起こったときに通知メールを発信します。
「監視結果が異常へと変化した時のみ通知を行う」	監視先が、「正常→異常」と変化した時のみ通知メールを発信します。

2.2 Syslog 通知設定

項目	内容
通知条件	Syslog メッセージを送信する条件を設定します。

通知条件

- | | |
|-------------------------|-------------------------------------|
| 「通知を行わない」 | ログを発信しません。 |
| 「常に通知を行う」 | 監視を行ったときに、必ずログを発信します。 |
| 「障害を検知した時のみ通知を行う」 | 異常を検出した場合に、ログを発信します。 |
| 「監視結果が変化した時のみ通知を行う」 | 監視先の、「正常・異常」の状態に変化が起こったときにログを発信します。 |
| 「監視結果が異常へと変化した時のみ通知を行う」 | 監視先が、「正常→異常」と変化した時のみログを発信します。 |

別途設定を行わない限り、監視時の通知にはここで設定した通知先が使われますが、「5.1 対象ホストの登録」での設定により、ホストごとに個別の設定を使用することも出来ます。

4.11.メール文面のカスタマイズ

監視 BlockS Pro では通知メールのカスタマイズをすることが出来ます。

方法は、「4.9 共通通知設定を行う」の画面の【通知文面】欄の【新規作成】ボタンを押して下さい。すると、以下の画面が現れます。

通知文面編集:

メール文面設定

文面名称	<input type="text"/>
件名	<input type="text"/> <input type="checkbox"/> 件名にホスト名称を含める
文頭文	<input type="text"/>
	<input checked="" type="checkbox"/> 監視結果を含める <input type="checkbox"/> 日本語化する
中正文	<input type="text"/>
	<input type="checkbox"/> 監視条件を含める <input type="checkbox"/> 日本語化する
文末文	<input type="text"/>

以下の各項目を設定することにより、メールの内容をカスタマイズすることが出来ます。
 また、「5.1 対象ホストの登録」での設定により、ホスト別等でメールの内容を変えることも出来ます。

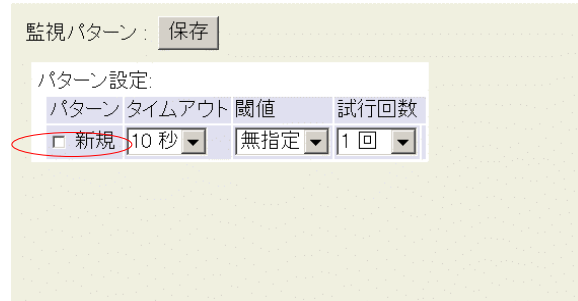
項目名	内容
文面名称	カスタマイズして作成した文章の名前を指定します。
件名	メールの件名「Title」を指定します。
件名にホスト名称を含める	これをチェックすると件名にホスト名称が挿入されます。
文頭文	メール通知する文面の文頭を設定します。 例： 「お世話になっております、xxxx ネットワークサービスです。 弊社のサーバに一時障害がでております」 「サーバ xxx に障害が出ています。至急システム部の xxx(内線:xxx)に連絡してください。」
死活監視を含める	これをチェックすると監視結果がメール本文に挿入されます。
日本語化する。	監視結果を日本語で表現します。
文中文	文頭文と同様にメールする文の文中を入力する欄です。
監視条件を含める	これをチェックするとどのような監視条件を使っていたかがメール本文に挿入されます。
日本語化する。	監視条件を日本語で表現します。
文末文	文頭文と同様にメールする文の文中を入力する欄です。 お詫び、連絡先等を記入することが出来ます。

5.監視パターンの設定

監視パターンの設定は監視対象の応答時間や応答回数により、「異常」/「正常」をユーザ側で設定できる機能です。

この設定をしなくても監視は可能です。より細かい監視を行いたい場合にのみ使用してください。

1. 表示された画面左のメニューから【基本設定】を開きます。



2. [新規]をチェックして下さい。

すると以下の項目が設定できます。

タイムアウト時間	Ping 等を発行して、異常と判定するまでの時間です。
閾値	下欄の試行回数中、何回成功したら正常と判定するか回数です。 試行回数以下の値を設定してください。
試行回数	Ping 等をトライする回数です。

閾値に「数値」を設定した場合は、試行回数の接続を行い結果の成功回数を閾値と比較して死活判定を行います。

閾値に「無指定」を設定した場合は、試行回数まで接続を行い成功した時点で終了します。

3. [保存] ボタンを押すと、新しい監視パターンが登録されます。

監視パターン:

パターン設定:

パターン	タイムアウト	閾値	試行回数	
<input type="checkbox"/> 新規	10 秒	無指定	1 回	
10 秒 3 / 10 回	10 秒	3 回	10 回	<input type="button" value="削除"/>

4. 既存の設定を変更して[保存]ボタンを押すと、内容が更新されます。

監視パターン:

パターン設定:

パターン	タイムアウト	閾値	試行回数	
<input type="checkbox"/> 新規	10 秒	無指定	1 回	
10 秒 3 / 10 回	5 秒	2 回	5 回	<input type="button" value="削除"/>

監視パターン:

パターン設定:

パターン	タイムアウト	閾値	試行回数	
<input type="checkbox"/> 新規	10 秒	無指定	1 回	
5 秒 2 / 5 回	5 秒	2 回	5 回	<input type="button" value="削除"/>

5.1.対象ホストの登録

ここでは監視 BlockS Pro が監視するホストの登録を行います。

1. 左側メニューの【新規ホスト追加】をクリックして下さい。すると以下の画面が表示されます。

新規ホスト追加:

監視対象ホスト	名称
ホスト名	<input type="text"/>
IPアドレス	???
コメント	<input type="text"/>

休止設定
手動休止 実行中 休止中

個別通知設定
 個別設定を使用する

メール通知設定

通知条件
 通知を行わない
 常に通知を行う
 エラーを検知した時のみ通知を行う
 監視結果が変化した時のみ通知を行う
 監視結果が異常へと変化した時のみ通知を行う

障害条件 連続でエラーを検知した時に障害と見なす

通知アドレス
 無指定
 無指定
 無指定
 無指定

Fromアドレス

送送アドレス

追加ヘッダ

通知文面

syslog通知設定

通知条件
 通知を行わない
 常に通知を行う
 エラーを検知した時のみ通知を行う
 監視結果が変化した時のみ通知を行う
 監視結果が異常へと変化した時のみ通知を行う

項目	
ホスト名	監視したいシステムの FQDN または IP アドレスを入力します。 名称欄をチェックしてあると、メール・一覧表示の名称としてこの欄の内容が表示されます。 ホスト名に含まれる英字はすべて小文字にしてください。大文字が含まれていると MRTG 監視ができません。(MRTG の仕様により、生成されるファイル名の英字がすべて小文字に変換されることによります。)
コメント	監視対象に対する覚書等を入力する欄です。内容によって、監視 BlockS Pro の機能に影響が出ることは有りません。 名称欄をチェックしてあると、メール・一覧表示の名称としてこの欄の内容が表示されます。 ホスト名と両方チェックしてあった場合「ホスト名」「コメント」の順序で表示されます。
個別通知 設定を使用する	これをチェックすると、「共通通知設定」で設定した内容ではなく、「個別設定を使用する」欄以下の内容を、このホストのみ別個に設定することが出来ます。
	通知文面 この項目を使うとホスト(相手)別に違う文面のメールを送ることが出来ます。 ただし、「共通通知設定」で設定した文面と設定方法は同じです。

必要な設定が終わったら画面上部の【追加】ボタンを押してください。すると画面左メニューの「新規ホスト」の下に登録したサーバ名が追加され、自動的に「監視設定追加画面」に移ります。
監視対象ホストは、255箇所まで指定可能です。

5.2. 「監視設定追加画面」設定

ここでは、5.1 で登録したホストの監視方法を設定します。

1. 監視するプロトコルや監視時刻・間隔を指定してください。
2. 画面右上の【追加】ボタンを押すと設定が登録されます。
1つのホストに対して4つまで別個に監視設定の登録が出来ます。
3. 完了すると【今すぐ確認】ボタンが出ます。
4. 監視設定を削除したい場合は、画面上部の「設定選択」で消したい監視設定を選択して「削除」ボタンを押して下さい。

監視 BlockS Pro 2007/07/25

設定選択: 監視設定1 更新 削除

監視対象ホスト 名称

ホスト名	192.168.253.97	<input checked="" type="checkbox"/>
IPアドレス	192.168.253.97	
コメント		<input type="checkbox"/>

通知アドレス

<input type="text"/>	無指定
<input type="text"/>	無指定
<input type="text"/>	無指定
<input type="text"/>	無指定
<input type="text"/>	無指定

監視時刻

開始時刻 0 時 0 分

終了時刻 - 時 - 分

間隔 1日

監視ポート

監視	ポート	監視パターン	監視オプション	状態	最終確認時刻
<input checked="" type="checkbox"/>	ICMP ECHO (ping)	-	10 秒 - / 1 回		-
<input type="checkbox"/>	ftp	21	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	ssh	22	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	smtp	25	10 秒 - / 1 回	<input type="checkbox"/> 詳細設定	
<input type="checkbox"/>	http	80	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	pop3	110	10 秒 - / 1 回	<input type="checkbox"/> 詳細設定	
<input type="checkbox"/>	imap	143	10 秒 - / 1 回	<input type="checkbox"/> 詳細設定	
<input type="checkbox"/>	指定ポート	<input type="text"/>	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	指定ポート	<input type="text"/>	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	指定ポート	<input type="text"/>	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	指定ポート	<input type="text"/>	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	指定ポート	<input type="text"/>	10 秒 - / 1 回		
<input type="checkbox"/>	指定ポート	<input type="text"/>	10 秒 - / 1 回		

今すぐ確認

MRTG監視

監視 BlockS Pro 2007/07/25

項目		
監視時刻	開始時刻： 終了時刻	監視を開始する時刻と終了する時刻を指定します。 例 開始 09:00 終了 19:00 : 9時00分から19時00分まで監視します。 開始時刻 > 終了時刻と指定すると、翌日の何時何分まで監視する指定となります。 例 開始 19:00 終了 09:00 : 19時00分から翌朝の9時00分まで監視します。 終了時刻を -- : -- と指定すると、24時間連続監視の指定となります。
	間隔	監視を行う間隔を指定します。
監視ポート	監視	これをチェックすると、設定されているポートを監視します。
	指定ポート	別途監視を行いたいTCPポート番号を指定します。
	監視パターン	監視を行うパターンを選択します。
	監視オプション	拡張監視設定を行う場合は、チェックボックスをチェックしてください。 詳細設定ボタンを押すと、ポート毎の拡張設定を行うページが開きます。
	状態	指定ポートの現在の状態を表示します。
	今すぐ確認	このボタンを押すとただちに監視を実行します。 「監視結果が変化したらときのみ通知する」が指定され、条件が変化したときには、メールが発信されます。

SMTP の場合の詳細設定ページ

監視詳細設定(SMTP):

接続時メッセージ確認
 文字列 を含む

接続時のメッセージに含まれる文字列を指定します。

5.3.MRTG 監視の設定

1. MRTG の監視を開始するときは、画面左でホストを選択し、画面上部の「設定選択」メニューで「MRTG 監視設定」を選択すると設定画面に移行します。
2. 終了するときは、監視設定の MRTG 監視欄の左にある終了ボタンを押すか、この画面の終了ボタンを押します。

設定選択: MRTG監視設定

監視対象ホスト		名称
ホスト名	192.168.253.97	<input checked="" type="checkbox"/>
IPアドレス	192.168.253.97	
コメント		<input type="checkbox"/>

通知アドレス	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定

コミュニティ名

監視	対象	閾値監視	閾値
<input type="checkbox"/>	トラフィック	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/> %
<input type="checkbox"/>	CPU	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/> %
<input type="checkbox"/>	実メモリ	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/> %
	スワップ	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/> %
<input type="checkbox"/>	ディスク	<input type="checkbox"/>	<input type="text"/> %

項目		
コミュニティ名		監視対象で設定されている <code>snmp</code> のコミュニティ名を入力します。
監視対象	監視	これをチェックすると、設定されている対象を監視します。
	閾値監視	これをチェックすると、監視を行うと設定された対象において、閾値監視を実行します。
	閾値	閾値監視において、警告を発する使用率を設定します。

監視対象が Windows の場合は、トラフィック以外の項目は監視できません。

3. MRTGのグラフオプションを変更する。

MRTGで生成するグラフのオプションは、

`Options[]: growright`

のみが設定されています。

これ以外のオプションを使用する場合は、`/usr/local/kbs/settings/mrtg/mrtg.cfg.template` ファイルを直接編集してください。

`WorkDir: /usr/local/kbs/mrtg`

この行は変更しないでください。

`Language: euc-jp`

この行は変更しないでください。

`Icondir: /mrtg/icons`

この行は変更しないでください。

`ThreshDir: /tmp/.mrtg`

この行は変更しないでください。

`MaxBytes[]: 12500000`

この行は変更しないでください。

`Title[]: MRTG`

`PageTop[]: <H1>監視ブロック</H1><HR>`

`Options[]: growright`

`ThreshProgI[]: /usr/local/bin/threshI.sh`

この行は変更しないでください。

`ThreshProgOKI[]: /usr/local/bin/threshOKI.sh`

この行は変更しないでください。

`ThreshProgO[]: /usr/local/bin/threshO.sh`

この行は変更しないでください。

`ThreshProgOKO[]: /usr/local/bin/threshOKO.sh`

この行は変更しないでください。

5.4.SNMP 監視の設定

1. SNMP の監視を開始するときは、画面左でホストを選択し、画面上部の「設定選択」メニューで「SNMP 監視設定」を選択すると設定画面に移行します。

設定選択: SNMP監視設定 更新

監視対象ホスト		名称
ホスト名	192.168.253.194	<input type="checkbox"/>
IPアドレス	192.168.253.194	
コメント	メールサーバ	<input checked="" type="checkbox"/>

通知アドレス	<input type="text"/>	デフォルト
	<input type="text"/>	デフォルト
	<input type="text"/>	デフォルト
	<input type="text"/>	デフォルト
	<input type="text"/>	デフォルト

SNMP設定:

プロトコルバージョン	<input checked="" type="radio"/> v1 <input type="radio"/> v2c <input type="radio"/> v3
コミュニティ/ユーザID	<input type="text"/>
認証キー	<input checked="" type="radio"/> MD5 <input type="radio"/> SHA
暗号化キー	<input checked="" type="radio"/> DES <input type="radio"/> AES

監視時刻

開始時刻	0 時 0 分
終了時刻	- 時 - 分
間隔	1 日

SNMP監視設定:

OID	下限閾値	上限閾値	計測値	最終確認時刻
<input type="checkbox"/> 新規 <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>		

項目		
SNMP 設定	プロトコルバージョン	SNMP 通信に使用するプロトコルのバージョンを設定します。
	コミュニティ/ユーザ ID	V1 V2c の場合は、監視対象で設定されている snmp のコミュニティ名を入力します。 V3 の場合は、ログインする SNMP ユーザ ID を指定します。
	認証キー	V3 の場合に認証に使用する暗号化アルゴリズムとキー (パスフレーズ) を指定します。
	暗号化キー	V3 の場合に通信に使用する暗号化アルゴリズムとキーを指定します。
監視時刻	開始時刻 : 終了時刻	監視を開始する時刻と終了する時刻を指定します。 例 開始 09:00 終了 19:00 : 9 時 00 分から 19 時 00 分まで監視します。 開始時刻 > 終了時刻と指定すると、翌日の何時何分まで監視する指定となります。 例 開始 19:00 終了 09:00 : 19 時 00 分から翌朝の 9 時 00 分まで監視します。 終了時刻を -- : -- と指定すると、24 時間連続監視の指定となります。
	間隔	監視を行う間隔を指定します。
SNM 監視設定	新規	これをチェックすると、新しい設定を追加することが出来ます。
	OID	監視を行う OID またはオブジェクト名を指定します。
	下限閾値	閾値監視を行う場合の下限値を指定します。 計測値がこの値を下回った場合メール発信条件に従いメールが発信されます。
	上限閾値	閾値監視を行う場合の上限値を指定します。 計測値がこの値を上回った場合メール発信条件に従いメールが発信されます。
	計測値	実際に得られた値を表示します。
	今すぐ確認	このボタンを押すとただちに監視を実行します。 「監視結果が変化したらときのみ通知する」が指定され、 条件が変化したときには、メールが発信されます。

上限・下限閾値は、省略可能です。

両方とも省略した場合、値の監視のみを行います。

項目は、16 個まで指定できます。

項目を削除する場合は、OID 欄を空白にしてください。

v3 指定で、認証キー・暗号化キーの両方を空白にした場合、"-l noAuthNoPriv"で通信します。

認証キーのみを設定した場合、"-l authNoPriv"で通信します。

両方共に設定した場合、"-l authPriv"で通信します。

5.5.SNMPTRAP 監視の設定

1. SNMPTRAP の監視を開始するときは、画面左でホストを選択し、画面上部の「設定選択」メニューで「SNMPTRAP 監視設定」を選択すると設定画面に移行します。

設定選択: SNMPTRAP監視設定 更新

監視対象ホスト		名称
ホスト名	192.168.253.97	<input checked="" type="checkbox"/>
IPアドレス	192.168.253.97	
コメント		<input type="checkbox"/>

通知アドレス	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定
	<input type="text"/>	無指定

SNMPTRAP監視設定:

	OID
<input type="checkbox"/>	SNMPv2-MIB::coldStart
<input type="checkbox"/>	SNMPv2-MIB::warmStart
<input type="checkbox"/>	SNMPv2-MIB::linkDown
<input type="checkbox"/>	SNMPv2-MIB::linkUp
<input type="checkbox"/>	SNMPv2-MIB::authenticationFailure
<input type="checkbox"/>	SNMPv2-MIB::epgNeighborLoss
<input type="checkbox"/>	新規 <input type="text"/>

5.7.既存設定を引き継いでの新規ホストの登録

現在の設定を引き継いで新しいホストを登録する場合は、画面左で引継ぎ元のホストを選択し、画面上部の「設定選択」メニューで「ホスト設定」を選んで、右側の複製ボタンを押して下さい。

設定選択: ホスト設定 更新 削除 複製

監視対象ホスト		名称
ホスト名	192.168.253.97	<input checked="" type="checkbox"/>
IPアドレス	192.168.253.97	
コメント	<input type="text"/>	<input type="checkbox"/>

新規ホストの FQDN または IP アドレスの入力を求めるダイアログが出ます。

Explorer ユーザープロンプト

スクリプトプロンプト:
新規ホスト名を入力してください。

OK
キャンセル

FQDN または IP アドレスを入力し「OK」ボタンを押すと新規ホストが作成されます。
このとき、コメント欄と名称の設定は引き継がれません。

5.8.設定一覧

画面左メニューの「設定一覧」をクリックすると以下の様に各監視対象の設定の一覧が表示されます。

監視対象ホスト		監視時刻			監視ポート								最終確認時刻	
#	ホスト名	#	開始	終了	間隔	ping	ftp	ssh	smtp	http	pop3	imap	指定ポート	最終確認時刻
1	SSD/Linux Router	1	0:00	-	1日				✓					2006/12/08 11:22:55
		2	0:00	-	1日			✓	.1.3.6.1.4.1.2021.4.5.0:					2006/12/08 11:15:06

5.9.監視の一時停止

サーバ・ネットワークのメンテナンス時等に監視 BlockS Pro に監視を一時的に停止させる機能です。左メニューの「監視の停止・復旧の設定」をクリックして下さい。

停止設定:

一時停止

20分間監視を停止:

停止スケジュール:

停止予定(1):

2007年 7月 11日 16時 54分

から 分間休止する

停止予定(2):

2007年 7月 11日 16時 54分

から 分間休止する

停止予定(3):

2007年 7月 11日 16時 54分

から 分間休止する

項目	機能
一時的に監視を停止	[停止]ボタンを押すと 20 分間監視を停止します。
停止スケジュール	予めスケジュールした時間に監視を停止させる機能です。 停止予定(1)から停止予定(3)まで 3 つのスケジュール設定が可能です。

6.WEB 監視ツールとの連携

監視 BlockS Pro には MRTG※1 が内蔵されています。画面左メニューの「拡張機能・リンク一覧」を選択すると、MRTG※1 で監視対象としたグラフ出力が参照できます。

また、他の WEB ベースの監視ツールを登録して、それを呼び出すことも出来ます。

WEB ベースの監視ツールを追加する方法

1. 「題名」で WEB ベースのツールの名称を指定します。監視 BlockS Pro の機能には特に影響しないので、分かりやすい名前を付けてください。
2. 「URL」で、WEB ベースのツールの URL を指定してください。指定後、[追加]ボタンを押してください。

リンク一覧

MRTG

[MRTG監視ホームページ](#)

外部リンク新規登録

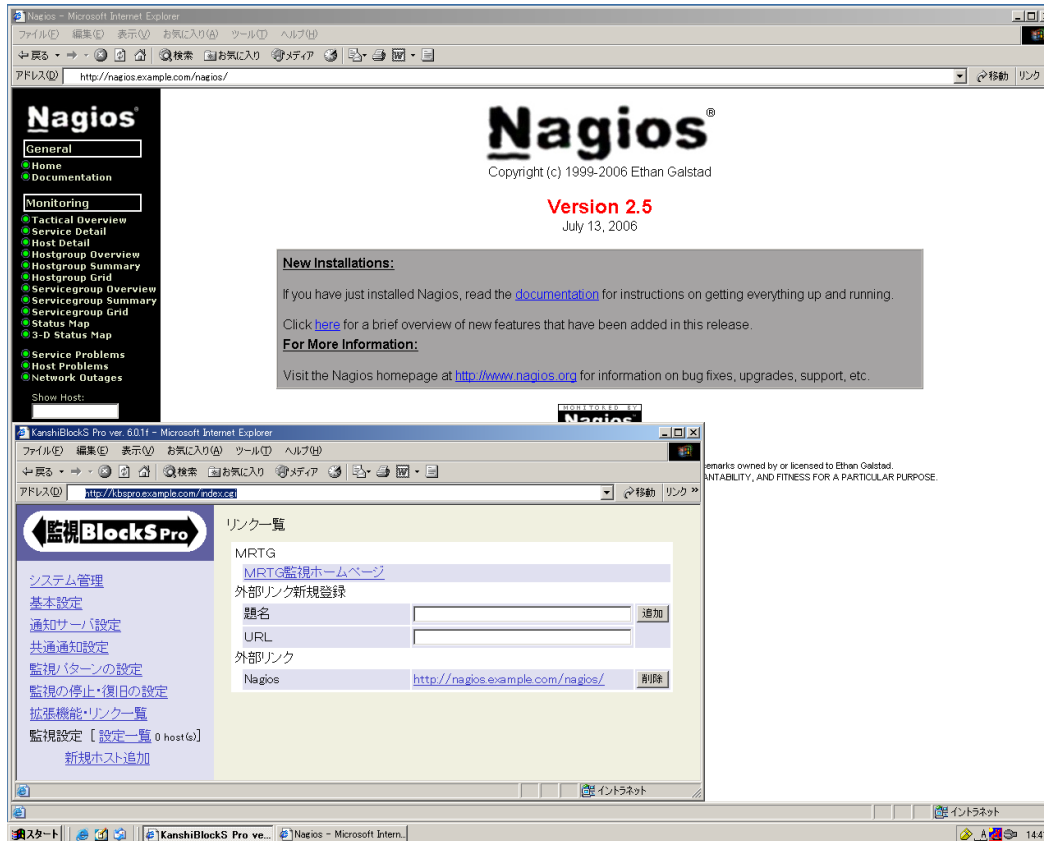
題名	<input type="text"/>	追加
URL	<input type="text"/>	

外部リンク

※1. MRTG(Multi Router Traffic Grapher)は GNU GPL で配布されるソフトウェアです。 監視 BlockS Pro をお買いあげ頂いたお客様には、ご希望の場合 GNU GPL に基づきソースコードを配布します。MRTG 用パッケージ部分に限り、GNU GPL に基づく範囲で再配布・修正が可能です。

監視 BlockS Pro 2007/07/25

以下の例では「Nagios」を題名として Nagios サーバを登録し、監視 BlockS Pro から呼び出しています。



7. システム管理

7.1. 監視 BlockS Pro のソフトウェアをバージョンアップする。

監視 BlockS Pro のソフトウェアのバージョンアップは以下の手順で行います。

ソフトウェアのバージョンアップを行うと、完了後、自動的に再起動されますのでご注意ください。

1. アップデータ配布ページよりアップデータファイルを取得しておきます。
2. 左側メニューの【システム管理】を開きます

システム管理

ソフトウェア情報

バージョン	監視BlockS Pro ソフトウェア 6.0.1
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

ファームウェア

バージョン	2.6.16 #1 Mon Jul 9 17:34:39 JST 2007
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

設定管理

設定のダウンロード	実行
設定のリストア	<input type="text"/> 参照... 実行

パスワード管理

パスワード変更	<input type="text"/>
パスワード再入力	<input type="text"/> 実行

実行管理

再起動	実行
シャットダウン	実行

3. ‘設定管理’の中にある“ソフトウェア情報”“アップデート”の右側の[参照] ボタンを押下します。
4. ファイル選択ダイアログが開きますので「手順1」で取得したファイルを選択します。選択が完了したら[OK] ボタンを押下し、ダイアログを閉じます。
5. この状態で[実行] ボタンを押すと、ソフトウェアアップデートが行われます。
6. 再起動完了後、下記 URL にアクセスし、バージョンアップが完了したことを確認します。
http://{監視 BlockS Pro のアドレス}/version
7. 以前のバージョン（1.01～5.05）のアップデートは、使用できません。

7.2.ファームウェアのアップデート

ファームウェアのバージョンアップを行うと、完了後、自動的に再起動されますのでご注意ください。

1. ファームウェア配布ページよりファームウェアファイルを取得しておきます。
2. 左側メニューの【システム管理】を開きます

システム管理

ソフトウェア情報

バージョン	監視BlockS Pro ソフトウェア 6.0.1
アップデート	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/> <input type="button" value="実行"/>

ファームウェア

バージョン	2.6.16 #1 Mon Jul 9 17:34:39 JST 2007
アップデート	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/> <input type="button" value="実行"/>

設定管理

設定のダウンロード	<input type="button" value="実行"/>
設定のリストア	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/> <input type="button" value="実行"/>

パスワード管理

パスワード変更	<input type="text"/>
パスワード再入力	<input type="text"/> <input type="button" value="実行"/>

実行管理

再起動	<input type="button" value="実行"/>
シャットダウン	<input type="button" value="実行"/>

3. ‘設定管理’の中にある“ファームウェア”“アップデート”の右側の[参照] ボタンを押下します。
4. ファイル選択ダイアログが開きますので「手順1」で取得したファイルを選択します。選択が完了したら[OK] ボタンを押下し、ダイアログを閉じます。
5. この状態で[実行] ボタンを押すと、ファームウェアアップデートが行われます。

7.3.監視設定のバックアップ

下記の方法で監視 BlockS Pro の設定内容のバックアップを作成できます。

バックアップは複数取ることができますので、万が一に備え、こまめなバックアップをお勧めします。

1. 左側メニューの【システム管理】を開きます

システム管理

ソフトウェア情報

バージョン	監視BlockS Pro ソフトウェア 6.0.1
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

ファームウェア

バージョン	2.6.16 #1 Mon Jul 9 17:34:39 JST 2007
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

設定管理

設定のダウンロード	<input type="text"/> 実行
設定のリストア	<input type="text"/> 参照... 実行

パスワード管理

パスワード変更	<input type="text"/>
パスワード再入力	<input type="text"/> 実行

実行管理

再起動	実行
シャットダウン	実行

2. 設定情報の“ダウンロード”の右側にある「実行」ボタンを押下します。
3. ダウンロードを開始し「ファイルのダウンロード」ダイアログが出ます。
このとき「保存」を選択します。
4. ファイルの保存先を選択するダイアログが開きますので保存先と名前を変えて保存する場合はファイル名を指定します。
指定が終了したら[OK] ボタンを押下し、ダイアログを閉じます。
設定をまとめたファイルがダウンロードされます。
このファイルは、監視設定をひとつのファイルにまとめたものです。
このファイルを用いることで、監視設定の復旧が行えます。

7.4.監視設定のリストア

前項でバックアップしたファイルを使用して設定を戻すことができます。

バックアップからの復帰を行うと、完了後、自動的に再起動されますのでご注意ください。

1. 左側メニューの【システム管理】を開きます

システム管理

ソフトウェア情報

バージョン	監視BlockS Pro ソフトウェア 6.0.1
アップデート	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/> <input type="button" value="実行"/>

ファームウェア

バージョン	2.6.16 #1 Mon Jul 9 17:34:39 JST 2007
アップデート	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/> <input type="button" value="実行"/>

設定管理

設定のダウンロード	<input type="button" value="実行"/>
設定のリストア	<input type="text"/> <input type="button" value="参照..."/> <input type="button" value="実行"/>

パスワード管理

パスワード変更	<input type="text"/>
パスワード再入力	<input type="text"/> <input type="button" value="実行"/>

実行管理

再起動	<input type="button" value="実行"/>
シャットダウン	<input type="button" value="実行"/>

3. ‘設定管理’の“設定のリストア”の右側にある「参照」ボタンを押下します。
4. ファイル選択ダイアログが開きますので保存したファイルを選択します。
選択が完了したら[OK] ボタンを押下し、ダイアログを閉じます。
5. この状態で[実行] ボタンを押すと、設定の復旧が行われ再起動します。
このとき現在の監視設定はすべて消去され、保存した時点の設定に戻ります。

バックアップ・リストアを行うのは、監視設定のみです。

「基本設定」ページで設定する内容は、変更されません。

他の監視 BlockS Pro でバックアップしたファイルでもリストアを行うことができます。

7.5.パスワードの変更

初期設定が完了したら、セキュリティの確保のため、運用開始前に必ず別のパスワードに変更して下さい。

1. 左側メニューの【システム管理】を開きます

システム管理

ソフトウェア情報

バージョン	監視BlockS Pro ソフトウェア 6.0.1
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

ファームウェア

バージョン	2.6.16 #1 Mon Jul 9 17:34:39 JST 2007
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

設定管理

設定のダウンロード	実行
設定のリストア	<input type="text"/> 参照... 実行

パスワード管理

パスワード変更	<input type="text"/>
パスワード再入力	<input type="text"/> 実行

実行管理

再起動	実行
シャットダウン	実行

2. ‘パスワード管理’の“パスワード変更”欄と“パスワード再入力”欄に新しいパスワードを入力し [実行] ボタンを押すと、パスワードが変更されます。

7.6.監視 BlockS Pro の再起動

監視 BlockS Pro を停止する場合の手順です。

1. 左側メニューの【システム管理】を開きます

システム管理

ソフトウェア情報

バージョン	監視BlockS Pro ソフトウェア 6.0.1
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

ファームウェア

バージョン	2.6.16 #1 Mon Jul 9 17:34:39 JST 2007
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

設定管理

設定のダウンロード	実行
設定のリストア	<input type="text"/> 参照... 実行

パスワード管理

パスワード変更	<input type="text"/>
パスワード再入力	<input type="text"/> 実行

実行管理

再起動	実行
シャットダウン	実行

2. ‘実行管理’の“再起動”の右側にある「実行」ボタンを押下します。
再起動するか聞いてきます。[OK]を選択すると再起動処理を行います。

3. 再起動すると以下の画面に変わります。



4. ステータスインジケータ 1,2,4 が往復動作を始めてからログイン画面に移行します。

7.7.監視 BlockS Pro の停止

監視 BlockS Pro を停止する場合の手順です。

1. 左側メニューの【システム管理】を開きます。

システム管理

ソフトウェア情報

バージョン	監視BlockS Pro ソフトウェア 6.0.1
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

ファームウェア

バージョン	2.6.16 #1 Mon Jul 9 17:34:39 JST 2007
アップデート	<input type="text"/> 参照... 実行

設定管理

設定のダウンロード	実行
設定のリストア	<input type="text"/> 参照... 実行

パスワード管理

パスワード変更	<input type="text"/>
パスワード再入力	<input type="text"/> 実行

実行管理

再起動	実行
シャットダウン	実行

2. ‘実行管理’の“シャットダウン”の右側にある「実行」ボタンを押下します。
停止するか聞いてきます。[OK]を選択すると停止処理を行います。

3. 停止すると以下の画面に変わります。



4. ステータスインジケータ 1,2,4 が全て点滅になったら AC アダプタを抜いて下さい。

8.自己復旧コマンドによる復旧

8.1.パスワードを忘れた場合の処理

パスワードなどが不明に監視 BlockS Pro に正常にログインできなくなった場合
以下の手順で復旧を行うことができます。

- ◆ 1) init ボタンを押しながら監視 BlockS Pro を起動します。
このとき IP アドレスは、eth0 192.168.253.254 eth1 192.168.254.254 に
設定されています。root のパスワードは root になっています。
- ◆ 2) root ユーザでログインし、以下のコマンドを発行します。
flashcfg -x
passwd
Changing password for root
Enter the new password (minimum of 5, maximum of 8 characters)
Please use a combination of upper and lower case letters and numbers.
New password:<新しいパスワードを入力します、入力した文字は見えません>
Re-enter new password: :<新しいパスワードを再入力します、入力した文字は見えません>
Password changed.
flashcfg -s /etc/flashcfg
reboot
- ◆ 3) 再起動すると、パスワードのみが新しいものになり以前の監視設定・「基本設定」部分の設定は
元のまま残っています。

8.2. IP アドレスやパスワードなど全てを初期化する。

IP のアドレスの設定やパスワードなどが不明になるなど監視 BlockS Pro に正常にログインできなくなった場合以下の手順で復旧を行うことができます。

- ◆ 1) init ボタンを押しながら監視 BlockS Pro を起動します。
このとき IP アドレスは、eth0 192.168.253.254 eth1 192.168.254.254 に設定されています。root のパスワードは root になっています。
- ◆ 2) root ユーザでログインし、以下のコマンドを発行します。
flashcfg -d
flashcfg -c initrd
reboot
- ◆ 3) 再起動後、root ユーザでログインし、以下のコマンドを発行します。
mount -t ext3 /dev/hda3 /mnt
/mnt/kbs/recov_kbs
reboot

なお、復旧コマンド使用后、以前の監視設定等はそのまま残りますが「基本設定」部分の設定が出荷時の状態に戻ってしまいます。また root パスワードは "root" に再設定されています。適宜設定しなおしてください。